

「過疎地域等における燃料供給インフラの維持に向けた安全対策の

あり方に関する検討会」における現地視察及び意見交換会

(1日目：長野県下伊那郡売木村)

議 事 次 第

日時：令和元年度9月11日 午後2時00分から午後5時00分まで

場所：道の駅南信州うるぎ、尼宮商店、売木村文化交流センターぶなの木

1 現地視察

- (1) 道の駅 南信州うるぎ (うるぎふるさと館)
- (2) 尼宮商店 (ENEOSうるぎ600SSくうるぎむらガソリンスタンドを残す会)

2 意見交換会 (@売木村文化交流センターぶなの木)

- (1) 売木村における燃料供給事情及びこれまでの取組みについて
- (2) 売木村における燃料需要等について
- (3) 今後の方向性について
- (4) 意見交換
- (5) その他

【配付資料】

- 資料 1 - 1 ~何度も訪れたくなる村~ うるぎ600の村づくり
- 資料 1 - 2 売木村の財政状況と今後の推移
- 資料 1 - 3 平成31年当初予算概要
- 資料 1 - 4 売木村における燃料供給体制の維持の必要性と今後の方策について

追加資料 2018年度月別油種売上表

「過疎地域等における燃料供給インフラの維持に向けた安全対策のあり方に関する検討会」における現地視察及び意見交換会
 (1日目：長野県下伊那郡売木村)

【座席表】

場所：売木村文化交流センターぶなの木

主婦連合会
 平野 祐子 委員

危険物保安技術協会
 小笠原 雄二 委員

東洋大学
 沼尾 波子 委員

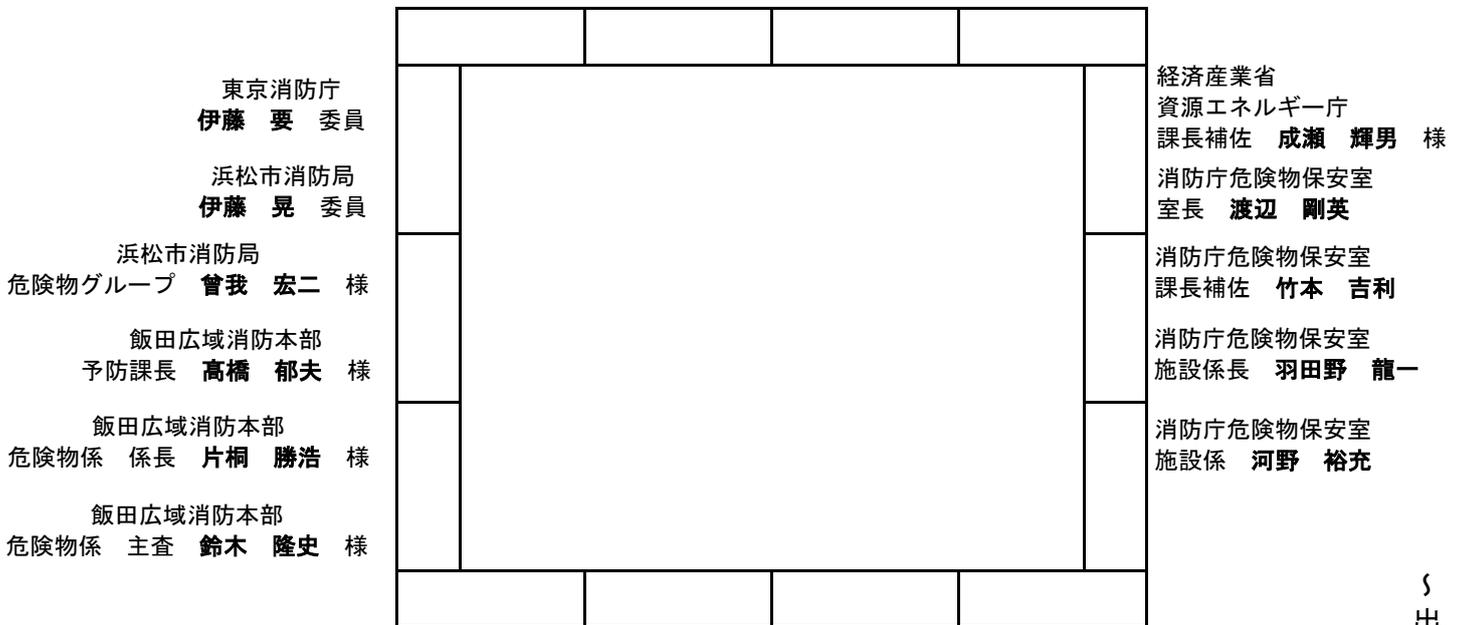
東京経済大学
 吉井 博明 検討会座長

横浜国立大学先端科学高等研究院
 三宅 淳巳 委員

全国石油商業組合連合会
 石井 弘一 委員代理

石油連盟
 清水 秀樹 委員

全国危険物安全協会
 松井 晶範 委員



出入口

売木村
 副村長 伊東 勝 様

売木村
 村長 清水 秀樹 様

うるぎむらガソリンスタンドを残す会
 会長 後藤 文登 様

地域おこし協力隊
 広田 華 様

売木村
 室長 村松 益隆 様



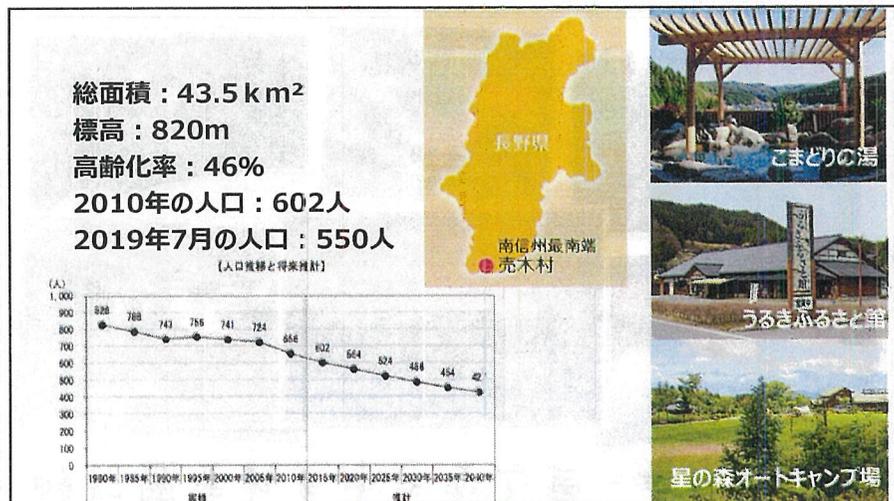
株式会社日本旅行
 加藤 真佑子 (書記)



売木村長
しみず ひでき
清水 秀樹
 昭和28年1月31日生まれ 66歳

売木村 岩倉地区に生まれる
 平成8年～平成24年6月 売木村議会議員
 平成17年4月 有限会社ネットワークうるぎ設立
 平成18年～平成22年 村議会議長を務める
 平成24年7月 売木村長に就任
 平成28年7月 売木村長として2期目就任





村を背負って

100キロウルトラマラソンに挑戦

世界ランキング5位!

100 KILOMETRES - MEN 2012 TOP LIST

1	6:18:26	Vasily LARKIN (RUS)	1位 (6月)
2	6:37:16	能見 秀雄 Hideo NO. O (JPN)	1位 (8月)
3	6:39:59	Giorgio CALCATERRA (ITA)	1位 (12月)
4	6:40:14	Steven WAY (GBR)	1位 (8月)
5	6:41:44	重見 高好 TAKAHIKI SHIGEMITSU (JPN)	2位 (8月)
6	6:44:33	水田 務 TSUTOMU MIZUTA (JPN)	3位 (8月)
7	6:46:25	Michael BOCH (FRA)	(無)1位
8	6:47:41	Jérôme BELLANCA (FRA)	アシラン1位 (10月)
9	6:48:44	原 良和 RYOKA HARA (JPN)	白馬十川1位 (10月)



走る村 重見高好選手の活躍

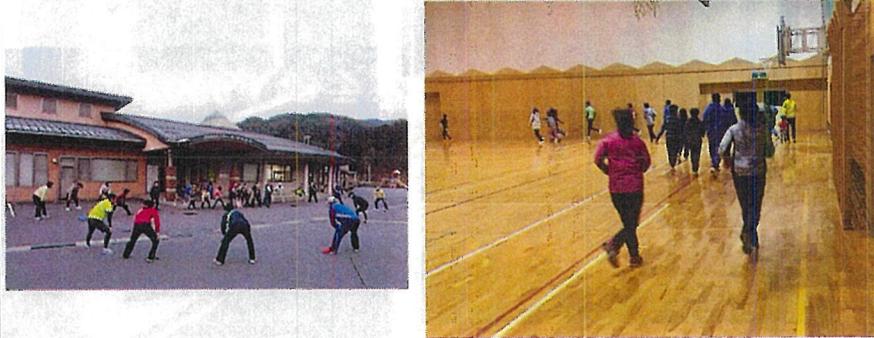
- サロマ湖100kmウルトラマラソン 2位 (2013年6月)
- 第1回白山・白川郷100kmウルトラマラソン 優勝 (2013年10月)
- 第8回神宮外苑24時間チャレンジ 優勝 (2013年11月)
- 第24回宮古島100kmワイドマラソン 優勝 (2014年1月)
- イタリア・トリノ第11回24時間走世界選手権出場 (2015年4月)
- 南アフリカビッグファイブマラソン 優勝 (2015年6月)
- ギリシャスパルタスロン 246km 総合11位 日本人2位 (2015年9月)
- 第10回神宮外苑24時間チャレンジ 優勝 (2015年12月)
- 2016さくら道国際ネイチャーラン 優勝 (2016年4月)
- RUN Across Taiwan 246km 優勝 (2018年4月)



うるぎトリアルRUN開催



陸上教室 ランニング講座・ウォーキング講座の開設



売木小学校6年生の総合学習 「100kmリレーマラソン」



うるぎランニングクラブ発足 駅伝大会参加



売木村新総合グラウンド



うるぎ600走る村 陸上競技場



2019/9/10

県境域5町村合同 婚活イベント開催



村は行く、
愛に県境はない!
闘合de本気のムコヨ×探し

愛知と長野の県境を越え
田舎の5町村が企画する
野外婚活イベント!

180度のパノラマを愛するも標高1200mの
19kmを駆りぬぐって婚活会場は秋津川で

9/23
2014
TUE
～秋ののび～

ふるさと
婚活イベント
参加費
無料!!

1 組成婚♡

2014年～2017年 うるぎ星の森音楽祭を開催



2015年 およそ900名を動員。
2016年 「もういちど木と暮らそう」をテーマに開催。
2017年 1000名以上を動員。

2018年～タイトル・会場を変更し、 うるぎ村ふるさと体感フェス『Uフェス』として開催



2019/9/10



たかきびまんじゅう10年ぶりに復活



10年前に途絶えたうるぎ名物たかきびまんじゅうを復活。
たかきびの栽培を村内でスタート。

「道の駅 みなみ信州うるぎ」他で製造・販売



売木村炭焼きプロジェクト

—うるぎ村 炭焼きと共に生きた村人の暮らし—



古くからある資源の見直し

女性2人組デュオPaix2(ペペ)

観光大使を任命



全国で売木村をPR

売木村のゆるキャラ“うるのすけ”と ペペのコンサート



CDも発売中です！



ラジオ番組にサプライズ出演

2014年6月 うるぎヒノキのブランド化報告会



強度試験の実施

名古屋市長にうるぎヒノキを売り込み



うるぎヒノキを使用した村営住宅
村澤製材工業有限会社



音楽祭でうるぎヒノキできりローソク

子育て支援策

- ・「君の椅子」事業（2015年～）
- ・出産祝金
- ・医療費無償化（～18歳まで）
- ・給食費の無償化



学習塾「花まる学習会」との連携授業開始



2017年4月より
連携による授業を開始。



村の新しい資源



2014年
福井県池田町からヤギ農家の後藤宝さん移住
2016年
ヤギミルクの特産品化、ヤギミルク工場開設、チーズ
工房建設中

うるぎ漬物加工所を官民一体となって設立



村の山菜や野菜を活用した取り組み

空家を活用、古民家再生



豊橋の方が売木村役場前の古民家を
カフェ&ギャラリーのの庵として2015年にオープン。

岩倉の空家を元地域おこし協力隊員が
農家民泊やゲストハウスとして活用。



インバウンドで村おこし「うるぎ国際センター」



古民家を「うるぎ国際センター(UIC)」として再生。
国内外からの集客を狙い、活動中。
(地域おこし協力隊 五月女・ニーザー・アレクサンダーさん)

売木村ふる里サポーター制度 『うるサポ』の開始



うるぎファン獲得・強力なサポーターとして第二村民的存在に。

外部人材を活用した村おこし①

愛知東邦大学

*** 大学との連携 ***

愛知大学

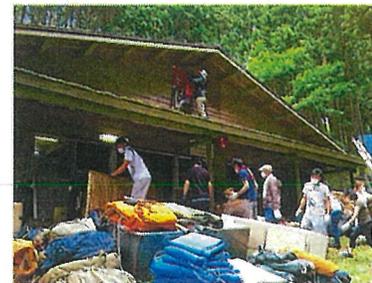


産業能率大学
(東京自由が丘)

外部人材を活用した村おこし②

*** 売木村体験口ハスOB ***

2016年～
岩倉キャンプ村再生プロジェクト開始



外部人材を活用した村おこし③

* 2017年～

都会と田舎を繋ぐ！企業連携 心のデトックス事業*

都会の企業人との連携プロジェクト。
朽ち果てかけていた空き家を改修して拠点づくりを実施。



地域おこし協力隊*集落支援員

1.伊藤隆子 (2017.4～) 移住交流推進 Webデザイン 地域おこし協力隊	2.五月女 ニーザー アレクサンダー (2017.5～) インバウンド 地域おこし協力隊	3.道地麻里奈 (2017.4～) 教育支援 地域おこし協力隊	4.加藤健 (2017.9～) 陶芸工房 地域おこし協力隊	5.広田華 (2019.4～) PR活動 役者 地域おこし協力隊	6.高木晴光 (2019.4～) 山村留学指導員 地域おこし協力隊
7.後藤室 (2015.11～) ヤギ、ヤギミルク による特産品開発 集落支援員	8.沼沢友美 (2015.4～) 移住交流推進 特産品開発 集落支援員	9.伊東和也 (2015.4～) 福祉支援 マラソンランナー 集落支援員	10.平野真穂 (2015.5～) 伝統野菜栽培 農林業振興 集落支援員	11.藤羽awa, (2015.4～) 社会教育振興 和太鼓・箏笛指導 集落支援員	12.渡野 (2016.4～) 伝山観光地化 藍羽サポート 集落支援員
					13.五月女実加 (2018.4～) 商工振興 集落支援員

地域に飛び出す公務員を 応援する首長連合に加盟

観光課から村づくり総合推進室へ 魅力ある村への新たな挑戦

- ・環境・文化・特色を活かした魅力的な村づくり
- ・ふるさと納税への取り組みを強化
- ・訪れたい村の魅力発信強化



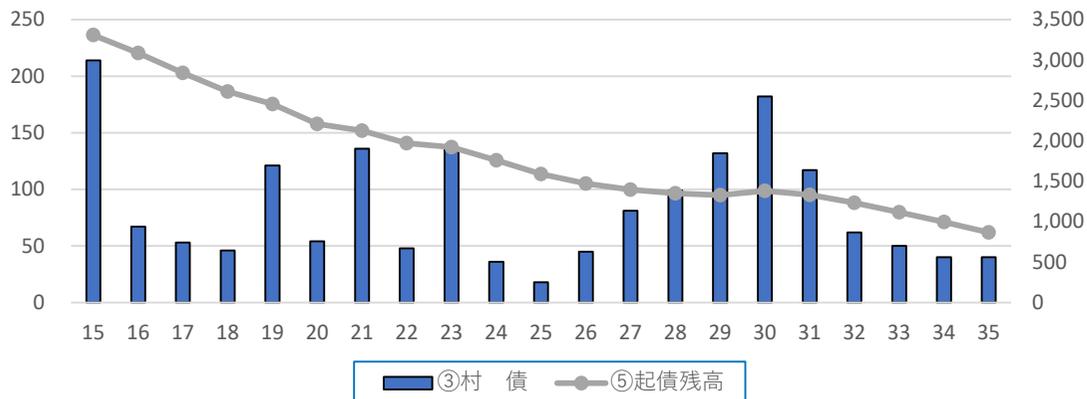
売木村の財政状況と今後の推移

平成	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
①村 税	73	74	70	73	75	74	70	71	70	69	67	70	73	71	70	69	70	70	70	69	69
②地方交付税	645	613	599	580	623	681	693	702	660	734	732	688	706	679	634	588	576	549	524	500	477
内普通交付税	574	545	540	524	545	577	589	586	554	632	626	584	604	565	519	493	468	444	422	401	381
③村 債	214	67	53	46	121	54	136	48	136	36	18	45	81	99	132	182	117	62	50	40	40
④基金保有額	505	548	538	561	582	593	649	798	891	1,027	1,035	1,120	1,210	1,201	1,004	826	727	750	760	770	780
⑤起債残高	3,308	3,088	2,839	2,610	2,455	2,211	2,127	1,972	1,921	1,759	1,589	1,472	1,398	1,350	1,329	1,380	1,334	1,234	1,116	995	867
⑥実質公債費比率	13.3	13.1	20.6	24.0	24.3	20.7	17.4	15.7	16.0	15.0	13.8	12.2	10.5	9.9	10.3	11.9	13.4	14.8	16.3	17.7	18.3

村税と地方交付税の推移



村債と起債残高の推移

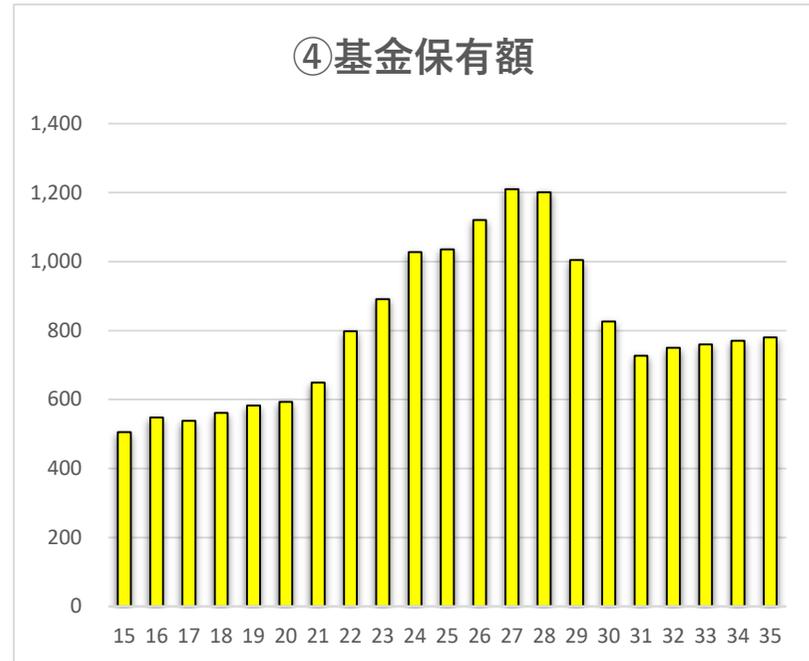


早期健全化比率 25.0%

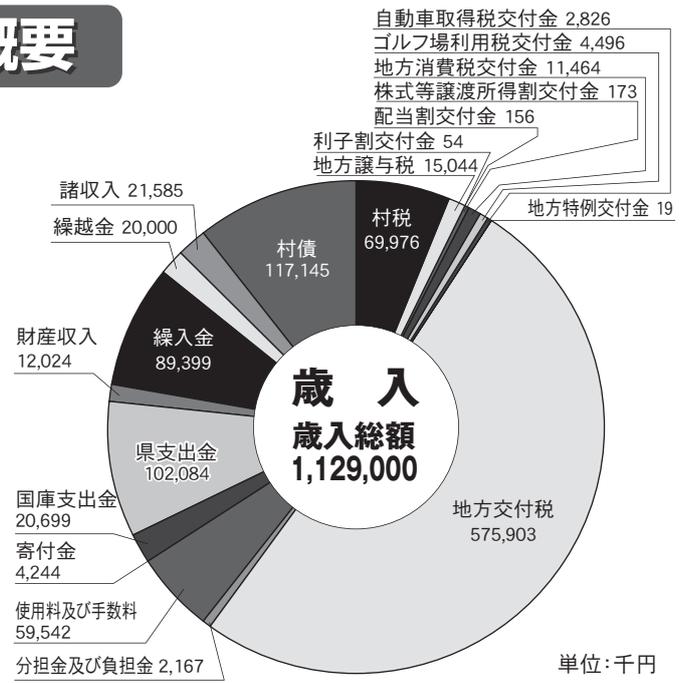
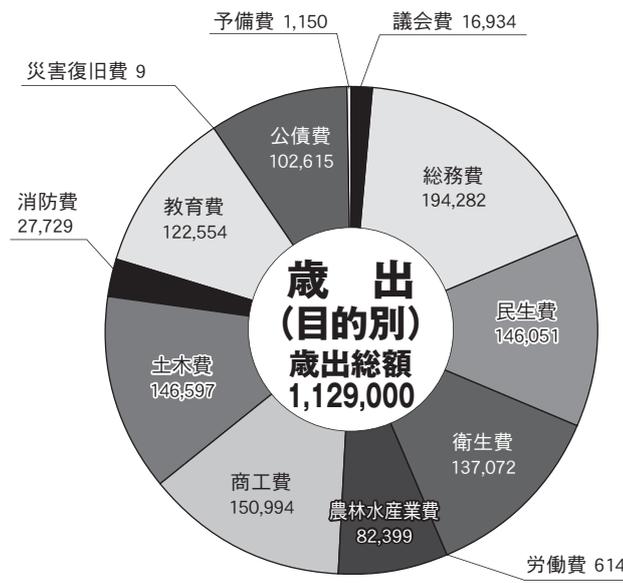
単位: 百万円・%

H15・16は単年度比率

④基金保有額



平成31年度 当初予算概要



●会計別前年比

会計別	予算額	前年度予算額	比較増減	増減率
一般会計	1,129,000	1,152,000	△ 23,000	△ 2.0%
特別会計				
国保特別会計	50,726	56,004	△ 5,278	△ 9.4%
直診特別会計	66,458	55,581	10,877	19.6%
簡水特別会計	66,212	65,875	337	0.5%
下水特別会計	42,985	43,078	△ 93	△ 0.2%
介護保険特別会計	122,758	125,466	△ 2,708	△ 2.2%
後期高齢者医療特別会計	9,841	9,473	368	3.9%
介護サービス特別会計	43,023	41,553	1,470	3.5%
小計	402,003	397,030	4,973	1.3%
合計	1,531,003	1,549,030	△ 18,027	△ 1.2%

●地方消費税引き上げ分の用途について

地方消費税率引き上げによる地方消費税交付金の増収分は、地方税法に基づき全て老人福祉費へ充当しています。
 『歳入』 地方消費税率引き上げによる地方消費税交付金の増収分4,641千円
 『歳出』

事業名			経費	財源内訳	
(款)	(項)	(目)		特定財源	一般財源
民生費	社会福祉費	老人福祉費	56,903	3,762	4,641
					48,500

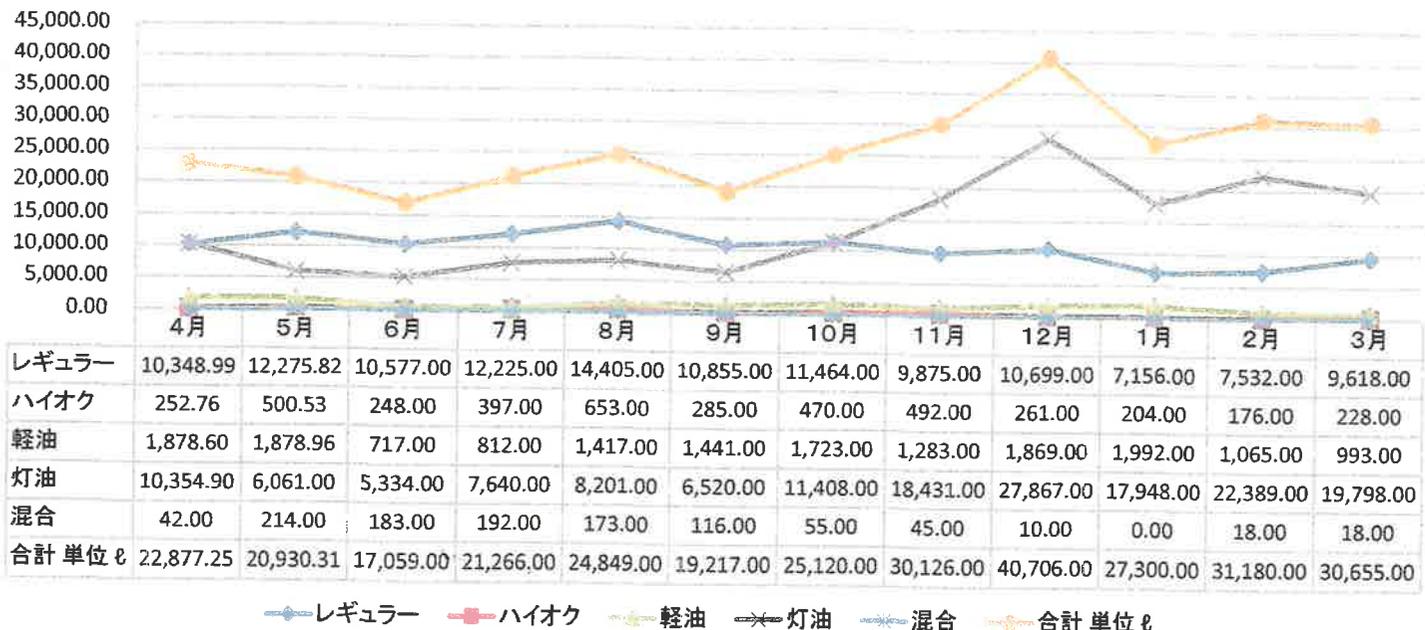
●「売木村の将来展望」に基づく自立に向けた見直し(事業)

見直し区分	項目	内容
情報通信	ケーブルテレビ	CATV局運営、ケーブルインターネット
"	防災行政無線	固定系デジタル化対応完了、広域消防対応
教育・産業	学校給食	地産地消推進のため売木産米の確保、給食費保護者負担の無料化
在宅福祉	介護サービスの充実	デイサービス、短期入所利用増に向けた体制整備
観光	特産品、イベント、誘客	イベントによる誘客、農家民泊支援、メディアによるPR
公共交通	路線バス運行	南部公共バス、村民バスの運行
生活安全	街路灯新設更新	電灯のLED化による省エネ、維持費削減
産業振興	起業、設備投資支援	産業振興資金支援、経営体育成支援、農地流動化促進事業
交流促進施設	ふるさと館運営	道の駅として指定管理
公民館活動	文芸祭、冬季大学	活動推進
上下水道料金	課金方法検討	水道料金H31年4月改定、下水道料金はR1年10月改定
小中学校	学校運営、山留事業	山村留学事業継続(村直営に変更)による教育の充実

●「売木村の将来展望」に基づく自立に向けた取り組み

見直し区分	項目	実施内容
人件費	議会議員報酬	条例で定められた額の15%→10.0・8.0%削減 定数7名(H24.7)
"	常勤特別職給与	条例で定められた額の村長7.8%、副村長5%教育長、4.9%削減
"	常勤一般職給与	条例で定められた額の0.0%~9%削減(総額の4.3%)超過勤務手当他削減
執行体制	人材育成	地域おこし協力隊員8名、集落支援員9名
学校運営	学級編成	小中学校複式学級解消
保育所運営	職員体制	加配職員配置(臨時職員)による保育の充実
自然休養村施設	管理運営	自然休養村センター・憩の家、道の駅指定管理
道路維持	村道改良	住民による施工(材料支給)、過疎計画(H28~H32)
道路除雪	私道等生活道	雪かきお助け隊の設置
農林業	有害鳥獣対策	住民による獣害防止柵設置、管理

2018年度月別油種売上表



	レギュラー	ハイオク	軽油	灯油	混合	合計 単位ℓ
4月	10,348.99	252.76	1,878.60	10,354.90	42.00	22,877.25
5月	12,275.82	500.53	1,878.96	6,061.70	214.00	20,931.01
6月	10,577.00	248.00	717.00	5,334.00	183.00	17,059.00
7月	12,225.00	397.00	812.00	7,640.00	192.00	21,266.00
8月	14,405.00	653.00	1,417.00	8,201.00	173.00	24,849.00
9月	10,855.00	285.00	1,441.00	6,520.00	116.00	19,217.00
10月	11,464.00	470.00	1,723.00	11,408.00	55.00	25,120.00
11月	9,875.00	492.00	1,283.00	18,431.00	45.00	30,126.00
12月	10,699.00	261.00	1,869.00	27,867.00	10.00	40,706.00
1月	7,156.00	204.00	1,992.00	17,948.00	0.00	27,300.00
2月	7,532.00	176.00	1,065.00	22,389.00	18.00	31,180.00
3月	9,618.00	228.00	993.00	19,798.00	18.00	30,655.00
合計	127,030.81 40.81%	4,167.29 1.34%	17,069.56 5.48%	161,952.60 52.03%	1,066.00 0.34%	311,286.26

売木村における燃料供給体制の維持の必要性と 今後の方策について

～村内にコンテナ式給油所（地上型タンク）を設置する必要性～

2019年9月11日

長野県売木村

1. 売木村内における燃料供給体制維持の必要性

必要性の背景① 生活機能の村内依存度が高く、燃料の村内購入率も高い

- 売木村では、人口に占める村内従業・通学者の割合が高い。
- 非従業・通学者を含めると、**87%の住民が日常生活を村内で過ごしており**、生活機能の村内依存度が高い。

住民の87%が日常生活を村内で過ごしている。

図 村民の従業・通学状況

区分	売木村		全国
	(人数)	(割合)	(割合)
総人口	575	100.0%	100.0%
従業も通学もしていない	225	39.1%	38.5%
村内で従業・通学（自宅に従業を含む）	273	47.5%	36.8%
村外で従業・通学	77	13.4%	24.7%
飯田市	21	3.7%	
阿南町	28	4.9%	
豊根村	9	1.6%	
その他	19	3.3%	

出典：平成27年国勢調査

- 平成30年度に実施した村民アンケートによると、村民のうるぎSSの利用率は高く、家庭用暖房、除雪機など生活に欠かせない機器は、いずれも**燃料の村内購入率が75%を超えている**。

図 村民のうるぎSS利用率（油種別、目的別）

	自動車	家庭用機器 (給湯、暖房等)	草刈機・刈払機	大型農機具（トラクター、コンバインなど）	農業用乾燥機	その他機械（除雪機など）
レギュラーガソリン	58.1%	—	76.5%	84.2%	—	90.5%
ハイオクガソリン	23.6%	—	—	—	—	—
軽油	48.2%	—	77.8%	89.7%	85.7%	75.0%
灯油	—	75.0%	—	—	—	—

出典：売木村「燃料（ガソリン・軽油・灯油）の利用や購入についてのアンケート」（村内全世帯を対象に、平成30年11月実施。回収率62%）

1. 売木村内における燃料供給体制維持の必要性

必要性の背景② 高齢者の割合や高齢者世帯の割合が極めて高い

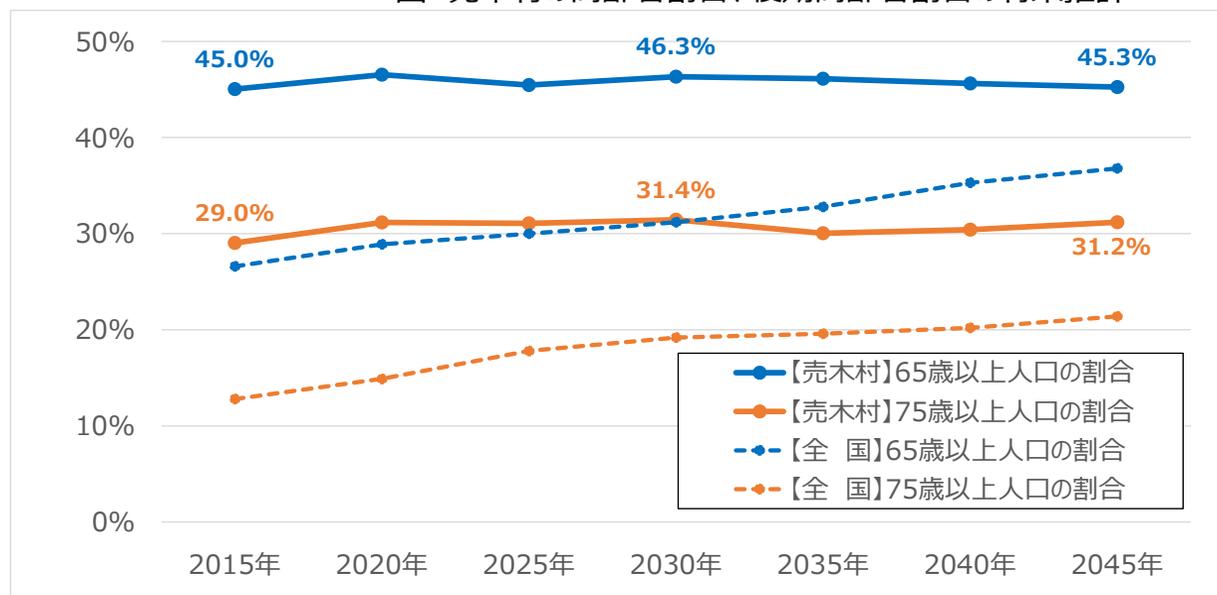
- 高齢者夫婦世帯、高齢者単身世帯の割合も高く、これらを合計すると、**高齢者のみの世帯が、全世帯の45%**にのぼる。
- 現在の売木村の**65歳以上人口の割合は45%、75歳以上人口の割合も29%**と、全国と比べて高く、今後もこの水準が続いていくものと推計されている。

図 売木村の高齢者世帯の状況

区分	売木村		全国
	(世帯数)	(割合)	(割合)
一般世帯数	269	100.0%	100.0%
高齢者夫婦のみの世帯数	60	22.3%	9.8%
高齢者単身世帯数	60	22.3%	11.1%

出典：平成27年国勢調査

図 売木村の高齢者割合、後期高齢者割合の将来推計



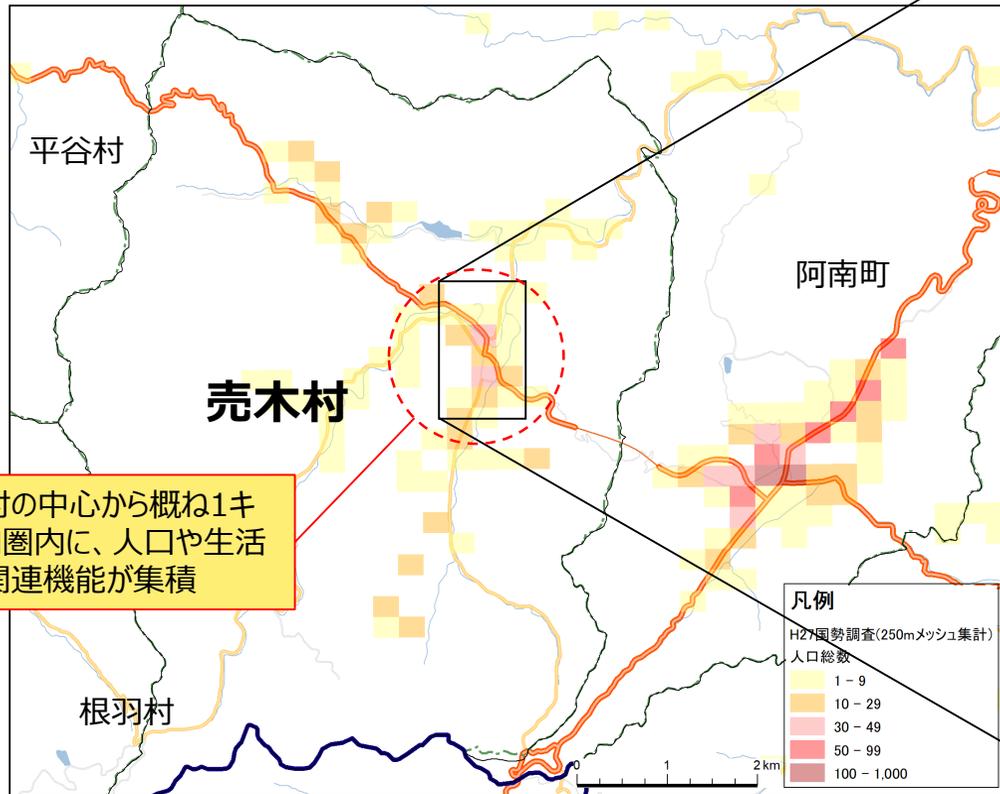
出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成30（2018）年推計）

1. 売木村内における燃料供給体制維持の必要性

必要性の背景③ 役場周辺に生活関連機能が集積している

- 現在、村内の生活関連機能や公益機能の多くは、売木村役場周辺に立地しており、うるぎSSもこのエリアに立地している。
- 役場を中心とした概ね1キロ圏内に、人口や各種施設が立地集積しており、一定の生活利便性が確保されている。

図 売木村の人口分布



村の中心から概ね1キロ圏内に、人口や生活関連機能が集積

図 売木村の中心部



1. 売木村内における燃料供給体制維持の必要性（まとめ）

必要性の背景①

生活機能の村内依存度が高く、
燃料の村内購入率も高い

必要性の背景②

高齢者の割合や高齢者世帯の
割合が極めて高い

必要性の背景③

役場周辺に生活関連機能や公
益機能が集積している

村内に一定の生活関連機
能を維持・確保することが
必要

高齢者の生活行動（移
動制約）を考慮する必要

既存の生活利便性を維持
・確保していくことが必要

- SSは、今後も村民生活に重要な生活関連機能（ライフライン）のひとつとして、これまで同様に、役場周辺での立地を維持していくことが必要。

- **SSを含めた生活関連機能、公益機能の集積・拠点化**が進むことによって、高齢化により移動制約者が増加する中でも、一定の生活利便性の確保、それによるコミュニティ活性化、村内消費喚起（にぎわい創出）及び災害対応力の強化等が図られ、さらにこれらの相乗効果による活性化の進展も期待される。

2. 売木村における燃料供給体制維持の課題と対応の方向性

- 村内唯一のSS「うるぎSS」は、住民有志による「売木村ガソリンスタンドを守る会」によって運営されている。
- 現在、SSは、村の補助金や公営温浴施設への燃料供給によって営業が維持されている現状であるが、
 - ✓ 村の財政状況は厳しさを増していること
 - ✓ 公営温浴施設の設備老朽化等により、大口需要先がなくなる（ボイラー燃料の転換）可能性があることなどから、今後も、現在のような経営を継続していくことは難しくなっている。
- 現在の地下タンクは、2023年に使用期限を迎えることとなっているが、今後も、引き続き村内にSSを維持していくためには、（地下タンクの使用期限を機に、）**抜本的な経営構造の転換＝ローコスト型SSへの転換**を図り、人口減少下でも自立的経営が可能な燃料供給体制を確保することが必要である。

公的な支援・需要の限界

- ・村の財政事情の悪化
- ・大口需要家（公営温浴施設）のエネルギー転換の可能性

地下タンクの使用期限

- ・2023年まで

現在のまま（設備更新するだけ）では、安定的・継続的なSSの維持は難しい

★考慮すべき背景

- ・自立的経営（公的支援を前提とない）
- ・人口減に伴う燃料需要減少の見通し（2030年人口は2015年比で26%減と推計）

SSを維持していくためには、**ローコスト型SSへの転換**が必要

★「ローコスト化」の方策

- ・イニシャルコストの低減…地上タンク化
- ・人件費の低減…「駆けつけ給油」を可能とする運営体制（集客施設との一体運営）

3. 売木村における燃料供給体制維持の方策（SSの収支シミュレーション）

シミュレーションの設定ケース

ケース1 現在の場所でのSSの更新

現在の場所で地下埋設タンク及び設備を更新（入替）し、引きつづきSSを単独運営。【**イニシャルコスト：約4500万円**】

ケース2 ローコストなコンテナ式地上タンクによるコンパクトなSSの新設と集客施設との一体運営

SSを集客施設隣接地に移転し、コンパクトな地上型タンクによるローコスト仕様のSSとして新設するとともに、集客施設スタッフによる駆けつけ給油を可能とすることで、イニシャルコスト、ランニングコストの低減。【**イニシャルコスト約2500万円**】

シミュレーションの設定条件

- シミュレーションに当たっては、既存の売木SSの経営状況を踏まえて、以下の条件により2021年～2040年の20年間の収支額を試算。

費目	設定条件、根拠
売上高（燃料販売額）	今後、売木村では人口が年に2%程度ずつ減少していく（国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」）ものと推計されていることから、燃料需要もこれと同様に、現在の販売額から年間2%ずつ減少していくものと想定。
売上原価（燃料仕入額）	燃料販売量と比例して、現在の売上原価（仕入額）から年間2%ずつ減少していくものと想定。原価率は一定と仮定。
人件費	現在の実績を踏まえ、スタッフ1人あたり年間300万円として設定。（H29年度実績295万円）
一般管理費	光熱水費、事務経費等あわせて年間100万として設定。（H29年度実績103万円）
借地料	現在の場所でのSSの更新（ケース1）の場合、借地代年間60万円として設定。（H29年度実績60万円） ケース2については、集客施設の敷地内を想定するため、地代は考慮しない。
設備維持管理費	地下型タンクの（ケース1）は、漏えい検査、タンク洗浄等に年間平均20万円として設定。
【イニシャルコスト】SS整備費 （タンク入替・設置、付帯設備）	地下型タンクを撤去し入替：2000万円（ケース1） 地下型タンクの防火設備、付属設備等工事2,500万円（ケース1） 地上型タンクのコンテナ式給油設置一式：2,500万円（ケース2）

3. 売木村における燃料供給体制維持の方策（SSの収支シミュレーション）

各ケースのシミュレーション結果

ケース1 現在の場所でのSSの更新

・現在の場所で地下埋設タンクを入替へ、設備を更新し、引きつづきSSを単独運営するケース。

【**イニシャルコスト：4,500万円（地下タンクの撤去入替、設備更新）**】

【**人件費：300万円/年 ×1名**】

項目	(単位：千円)	2021年 ~2030年	2031年 ~2040年	2021年 ~2040年計
売上高		309,487	252,873	562,360
売上原価		269,172	219,933	489,105
売上総利益		40,315	32,940	73,255
販管費		93,000	48,000	141,000
	人件費	30,000	30,000	60,000
	一般管理費	16,000	16,000	32,000
	設備維持管理費	2,000	2,000	4,000
減価償却費（設備8年償却）		45,000	0	45,000
営業利益（収支）		-52,685	-15,060	▲67,745

ケース2 ローコストSS新設、集客施設と一体運営

・SSを集客施設隣接地に移転し、新たな供給形態として地上型タンクによるコンパクトなSSを併設することで、利便性の向上による相乗効果を図る。

・設置に際して大規模な工事もいらず、工事期間の短縮、コストの削減に寄与し、スタッフを集客施設と兼務させ、駆けつけ給油を可能とすることで、効率的なローコスト運営を行うケース。

【**イニシャルコスト：2,500万円（地上タンク設置）**】

【**人件費：300万円/年 ×0.5名（駆けつけ給油）**】

項目	(単位：千円)	2021年 ~2030年	2031年 ~2040年	2021年 ~2040年計
売上高		309,487	252,873	562,360
売上原価		269,172	219,933	489,105
売上総利益		40,315	32,940	73,255
販管費		50,000	25,000	75,000
	人件費	15,000	15,000	30,000
	一般管理費	10,000	10,000	20,000
	設備維持管理費	0	0	0
減価償却費（設備8年償却）		25,000	0	25,000
営業利益（収支）		-9,685	7,940	▲1,745

3. 売木村における燃料供給体制維持の方策（SSの収支シミュレーション）

各ケースのシミュレーション結果の総括

【検討の視点】

さらなる人口減少、需要の縮小が進行しても、燃料供給拠点を維持できるか否か。

ケース1 現在の場所で従来型SSの設備更新

現在の場所で地下埋設タンクを撤去し入換えて、設備更新し、引き続きSSを単独運営するケース。

【**イニシャルコスト：4,500万円**
（地下タンク入替、設備更新）】
【**人件費：300万円/年 ×1名相当**】

- **2021～2030年の収支：▲5,269万円**
（工事費4500万円含む）
- **2031～2040年の収支：▲1,506万円**
- 当初から一貫して大幅な赤字が継続する。
- 従来型SSはイニシャルコストが多額であり、漏洩防止等のメンテナンス費用も大きい。
- **従来型SSでの経営は、イニシャルコスト、ランニングコストとも赤字額が大きく、維持困難となる可能性が高い。**

ケース2 ローコストSS新設、集客施設と一体運営

SSを集客施設隣接地に移転し、地上型タンクによるコンパクトでローコストSSを新設したうえで、集客施設スタッフによる駆けつけ給油を可能とするケース。

【**イニシャルコスト：2,500万円**
（地上タンク埋設、設備新設）】
【**人件費：300万円/年 ×0.5名**
（駆けつけ給油）】

- **2021～2030年の収支：▲ 969万円**
（工事費2500万円含む）
- **2031～2040年の収支： + 794万円**
- イニシャルコストは比較的少額で機能は従来と同等。
- イニシャルコストの減価償却費の回収期間は赤字だが、その後は黒字に転換する。
- 地下タンクと比較してランニングコストも低く収益に貢献。
- コンパクトなローコスト運営により採算性を確保。
- **→イニシャルコスト分の支援措置が講じられれば、赤字分を補填し、運営を維持できる可能性が高い。**

3. 売木村における燃料供給体制維持の方策（SSの収支シミュレーション）

各ケースのシミュレーション結果の総括

（参考ケース）

ローコストSS新設、集客施設と一体運営が 集客に寄与し減少率が緩和された場合。

ケース2に関して、集客施設とSSの一体化による生活機能の集積・拠点化による利便性向上、村が進める地方創生の進展等により、人口減少の抑制、交流人口の増加等が進み、**燃料需要の減少が年間1%にとどまった場合。**

【**イニシャルコスト：2,500万円**
（**地上タンク埋設、設備新設**）】

【**人件費：300万円/年 ×0.5名**
（**駆けつけ給油**）】

項目	(単位：千円)	2021年 ~2030年	2031年 ~2040年	2021年 ~2040年計
売上高		323,544	292,607	616,151
売上原価		281,398	254,491	535,890
売上総利益		42,146	38,116	80,262
販管費		50,000	25,000	75,000
人件費		15,000	15,000	30,000
一般管理費		10,000	10,000	20,000
設備維持管理費		0	0	0
減価償却費（設備8年償却）		25,000	0	25,000
営業利益（収支）		-7,854	13,116	5,262

- **2021～2030年の収支：▲ 785万円**
（**工事費2500万円含む**）
- **2031～2040年の収支：+ 1312万円**
- イニシャルコストは比較的少額で機能は従来と同等。
- イニシャルコストの減価償却費の回収期間は赤字だが、その後は黒字に転換し、**20年間では黒字。**
- 地下タンクと比較してランニングコストも低く収益に貢献。
- コンパクトなローコスト運営により採算性を確保。
- **需要の減少する過疎地においても運営を維持できる可能性が高い。**